第42回相模原市教育研究発表大会の報告

ともに見つめ　ともに創る　子どもの未来

７月３０日（水）、相模原市長をはじめ１２名のご来賓をお迎えして、「第４２回相模原市教育研究発表大会」を開催しました。全体会では、教育長から「この研究発表大会を通じ、学校教育と社会教育にたずさわる方々が交流し、双方の役割や活動を理解し、連携・協力をさらに深めてくださるよう願っております。発表者をはじめ、ご参会の皆様の熱意と意欲に期待し、本研究発表大会が活力ある相模原のさらなる創造に寄与することを願っております」と挨拶がありました。

午前中は全体会に引き続き、記念講演会が行われました。午後は各会場に分かれ、それぞれ１１の分科会において発表と協議が行われました。また、市立小中学校１０９校（小学校７２校・中学校３７校）の先生方をはじめ、高等学校・保育園・幼稚園・ＰＴＡ・青少年相談員・市民の方など、全体会・記念講演会に、９１９名、分科会に１２１８名の参加があり、多くの方々の協力のもとに開催することができました。

◇◇◇ 記 念 講 演 会 ◇◇◇◇◇◇◇◇

宇宙といのち ～宇宙教育の実践から～

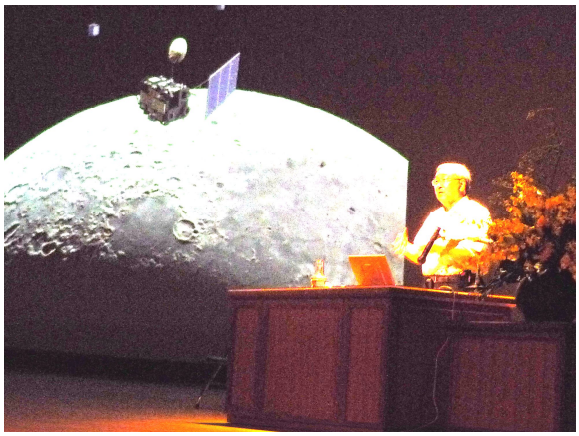
講師：**的 川　泰 宣** 氏

宇宙航空研究開発機構(JAXA)名誉教授

記念講演会として、本市にあります宇宙航空研究開発機構「宇宙科学研究本部」の的川泰宣氏から「宇宙といのち～宇宙教育の実践から～」というテーマでご講演をいただきました。

的川氏の温厚な人柄とたくさんの経験から語られるお話を、興味深くまた楽しく聞くことができました。今、日常生活の中で興味・関心のある事のお話から、「なぜ人類は宇宙を目指したのか」のお考えを通して、「子どもの夢を育てる教育が必要である」と言われました。その中で、子どもと接する時の３つのポイントとして『① 好奇心を高め合うこと』『② 冒険心を育てること』『③ 匠（たくみ）の心を刺激し合うこと』を大切にし、「子どもの心に火をつけていただきたい」とお言葉をいただきました。

ロケット工学の第一人者であり、宇宙教育でも活躍されてこられた的川氏から、教育に対する思いや考えをもとに、これからの相模原市の教育活動への示唆をいただきました。



＜「記念講演会」参加者からの感想＞Part.1

○教育の原点のような話を聞くことができました。

○とてもためになった。帰ったら子どもに話してみたい。

<「記念講演会」参加者からの感想>Part.2

○「最高の教師は、子どもの心に火をつける」(ｳｨﾘｱﾑ･ｳｫｰﾄﾞ)の言葉は印象に残った。

○宇宙工学(航学)の最先端の研究者が、子どもたちへの宇宙への関心を高めることで活躍なさっている様子には感銘を受けました。匠、冒険、いのちといったキーワードをもとに宇宙から生命を見つめる視点は、新しい発見がありました。

○宇宙規模から命を考えられました。子どもの好奇心を生きる力と考えられる教師でありたいとつくづく感じました。

◇◇◇ 分 科 会 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇
１１の分科会、３９本の研究発表

午後からは、１１の分科会で３９本の研究の成果や活動実践が発表されました。小・中学校の教職員をはじめ、高等学校、保育園、幼稚園、青少年相談員協議会、小・中学校ＰＴＡ、ＮＰＯ、地域ボランティア、市民の方々等、多くの教育機関・分野からの参加をいただきました。

いずれの発表内容も、２１世紀に豊かに生きる子どもたちの育成をめざし、今日的な教育課題をみすえた上で、その解決に積極的にご努力された成果でありました。学校教育と社会教育にたずさわる多くの方々が発表をもとに協議を行うことで、交流し合い、それぞれの役割や活動を理解し、連携・協力をさらに深めてくださる機会とすることができました。

<「分科会」参加者からの感想>

○「自分の変容が子どもに与える影響」ということを心に留め、今後の教育活動に生かしていきたい。

○幼稚園、保育園の様々な考えや教育の仕方を知り、小学校での対応も考えなければならないと思いました。

○保護者として、子どもたちに合った支援を先生方は日々行っているなと思いました。

○様々な視点から、国際教育について、理解を深めることができました。学校だけでなく、地域の力、保護者の力が本当に必要なのだと実感しました。

○□□先生のU字型ノートやがってんノートを用いた、科学的な見方や考え方を養う授業例が同じ4年生を担任している自分にとって参考になりました。

○中学校支援教室「銀河」のことがよく分かり、卒業後のことも知ることができ、不登校になった生徒たちに、どのようことを身につけさせ、かかわっていったらよいか分かったような気がする。

○PTAと学校との信頼関係が大切・・・・改めて感じた。

さがみはら教育１４５号の報告

特集テーマ:豊かな人間関係づくりをめざして

「伝え合うこと」を視点とした「人間関係づくり」に焦点をあて、子どもや教師にアンケート調査を実施し、今の子どもの心の様子、心のあり方を捉えていこうと考えました。

調査結果の分析や提言等から、次のような大切なことがみえてきました。

○「伝え合うこと」は、相手の思いや考えを“受容”することである。つまり相手の思いや考えを言葉を中心に“聞き”、相手の表情・声の大きさなどを“察し”、自分が受け入れたあと、自分の言葉で考えを相手に返すこと。

○教師は自分自身の「伝え合うこと」を見直し、子どもと真剣に向き合い、自分らしさを出し、自分の言葉で伝え合うこと。

○伝えてよかったという実感を持たせる、授業の工夫。

次号　さがみはら教育１４６号は　！

次号は、平成21年3月発行の予定です。特集の内容は、子どもたちの携帯電話の利用実態や課題などに視点を当てて、大人や学校はどのように対処していったらよいのかについて考えていきます。